
ダークネス・ナイト

夜雅 綾音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダークネス・ナイト

【Nコード】

N4687Y

【作者名】

夜雅 綾音

【あらすじ】

人々を守る為その剣を振るう騎士とその騎士に付き従い、絶対の忠誠を誓う従士。そんな主従関係が当たり前の世界の物語。黒羽家当主兼黒騎士である黒羽 京 >クレハ キョウ<（17）は、とある事情で名家の騎士達が集う”私立 盟立館高校”に転入する事に。そこで4年前に従士契約を破棄した黒羽家付きの従士にして漆家の当主である”漆 漆黒”>ウルシ シツコク<と再会する。この再会が2人に何をもたらすのか それは、神すら知らない。

基本シリーズ。

BL・NL有り。

序 手紙

。 眞実から瞳を逸らすのは、いけない事だと分かっているはずなのに

それでも、俺は……。

それは、とある午後の昼下がりの出来事だった。

俺は、いつものように、何をするでもなく、ただ物思いに耽っていた。

それが、今の俺の日常で、こんな平穏がいつまでも続けばいいなと願ってしまう。

だけど、永遠なんてものは、限りなく不確かで……。

それでも俺はその仮初めな平和を望んでいた。

……だが、今のこの世界で平和と言つ言葉程、陳腐なものはない。

少なくとも、俺はそう思う。

俺が部屋の畳に寝転がって、考えを巡らせていると…。

「どうしたんだい、京？」

ミシリ、と俺の寝転がっているすぐ近くで、畳の鳴る音がした。

「兄貴…」

その声を追って視線を向けると、俺の兄である>黒羽 翔くが、にこやかな笑みを称え、此方を見据えていた。

「……別に」

実に素っ気ない返事が口をついて出た。故意ではない。

熟考した結果の台詞がこれでいいのか？などと頭に過ぎったが今は

兄と仲良く談笑する気分など到底無く……、

「何でもねえよ」

とにかく今は一人で感傷に浸っていたかったんだ。

「そうかい？」

そんな俺に兄は苦笑しながらも、言葉が続ける。

「転入手続きが出来たんだ、明日から晴れて京は盟立館高校に、」

「いい、最後まで言わなくても分かってる」

強引に割り込み話を阻止すると兄は困ったように微笑んだ。

ああ、

（しまった）

またやってしまった。

別に兄弟仲が悪い訳ではない、寧ろ良好な方だと思う。

只、今は誰かと対話する気分ではなかったから……。

（コレじゃあただの八つ当たりだな）

兄を困らせるだけじゃ飽き足らず、挙げ句の果てに八つ当たりまでしてしまうなんて……。

我ながらなんて幼稚で、

どこまでも子どもじみている。

俺は昔から兄貴……翔や周りの人達の優しさに甘え、依存していた。

だが、過度の依存は時として大切な人を傷つける。

何よりも、兄以上に大切だった”アイツ”を、俺は傷つけた。

こんな俺を守りたいと言ってくれた”アイツ”を。

『……………京様っ！！』

今でも脳裏に焼き付いて離れない。

”アイツ”の悲痛な叫びと、零れ落ちる涙を。

（考えるのはやめだ）

こんな事を思い出している場合じゃない。

「……嫌なら辞めてもいいんだよ」

のっそりと起き上がって居間から出て行こうとすると兄の声が俺を引き止める。

（それは”何”を？）

兄の含みの籠もった言葉にそう返してしまいたかった。

が、寸での所でその言葉を飲み込んで、

「……大丈夫だよ」

たった一言呟いて、逃げるように居間を去った。

全てを投げ出して、

全てを諦めて、

全てを辞めてしまえたのならば、どんなに楽だろうか。

しかし、俺にはその全てが赦されるはずもない。

赦されないのならば、

最初からこうなる事が決まっていたのだと全て受け入れてしまえばいいだけの事だ。

『自室に戻って明日の準備をする』

そう言っただけでまだ物いいたげな兄を振り切って部屋の扉を閉めた。

ホッ、と一息入れたのも束の間、机の上に無造作に放られた明日から新しく通う羽目になった高校のパンフレット。

その隣に真新しい手紙が一通置いてあった。

（兄貴が置いたのか？）

”黒羽 京 様”

全く心当たり等無いが確かに俺の名前が手紙の宛名に記されていた。
いつもは無断で俺の部屋に入る事等しない兄が、この手紙を置いた
本人なのかは甚だ疑問だが……、

（この家には俺と兄貴しか居ないし、な）

必然的にこの手紙を置いたのは兄以外は有り得ない。それにしても
俺宛てに手紙なんて物好きな……、

手紙の封筒を裏返し差出人を確認して、

「　　っ！！!?」

守りたいと思ってたのに、

何よりも大切だったのに、

他ならぬ俺自身が傷つけて、

遠ざけて、

拳げ句の果てに裏切った、

” 差出人 漆 漆黒 ”

” アイツ ” からの手紙だった。

この手紙がもたらすは、

幸福か、

絶望か、

喜びか、

悲しみか、

封を切るまでは分からない。

しかし、一つだけ分かる事があるとすれば、それは、

きつとこの手紙が俺の人生を左右する。

俺の人生なんて、漆黒が綴った紙切れ一つで簡単に変わる。

漆 漆黒の存在が、

黒羽 京を狂わせる。

それは、堪らなく不快で、

とても心地良い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4687y/>

ダークネス・ナイト

2011年11月17日17時40分発行